

設楽ダム建設事業再評価

平成20年12月19日
国土交通省中部地方整備局
設楽ダム工事事務所

目 次

事業再評価について	1
I.事業の必要性等	3
1. 設楽ダム概要	3
2. 事業の必要性	4
3. 事業を巡る社会経済情勢等の変化	11
4. 事業の進捗状況	13
5. 事業の投資効果	26
II.事業の進捗の見込み	27
III.設楽ダムのコスト縮減や代替案立案の可能性	28
1. ダム事業費等監理委員会	28
2. 代替案立案等の可能性の検討	30
対応方針(案)	31

H20年度 設楽ダム建設事業の事業再評価について

今回再評価の審議をする理由

平成20年10月27日に「設楽ダムの建設に関する基本計画」を作成したことにより、総事業費、費用負担割合等のダム計画が確定したため再評価を実施する。

■ ■ 「設楽ダムの建設に関する基本計画」に定められた基本事項 ■ ■

1. 目的
2. 位置及び名称
3. 規模及び型式
4. 貯留量、取水量及び放流量並びに貯留量の用途別配分に関する事項
5. ダム使用权の設定予定者
6. 建設に要する費用及びその負担に関する事項
7. 工期

基本計画策定までの流れ

【平成20年1月】
愛知県が国土交通省
にダム使用权設定の
申請

【平成20年1月】
国土交通省が愛知県知事
に設楽ダム基本計画の
作成について意見照会

【平成20年3月】
愛知県知事から議会の
議決を経て、意見
照会に対する同意の
回答

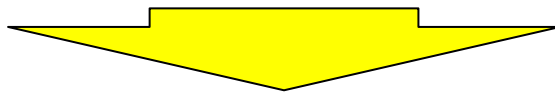
【平成20年10月】
「設楽ダムの建設に
関する基本計画」
公示

「第31回豊川の明日を考える流域委員会」

・事業再評価の視点について

事業再評価について

前回の事業再評価時から約1年間(H19.9月～H20.12月)の変化

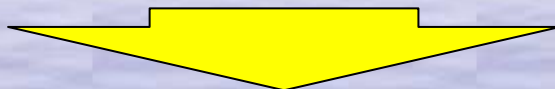


I.事業の必要性等に関する視点

1. 事業の必要性
2. 事業を巡る社会経済情勢等の変化
3. 事業の進捗状況
4. 事業の投資効果

II.事業の進捗の見込みの視点

III.コスト縮減や代替案立案などの可能性の視点



対応方針

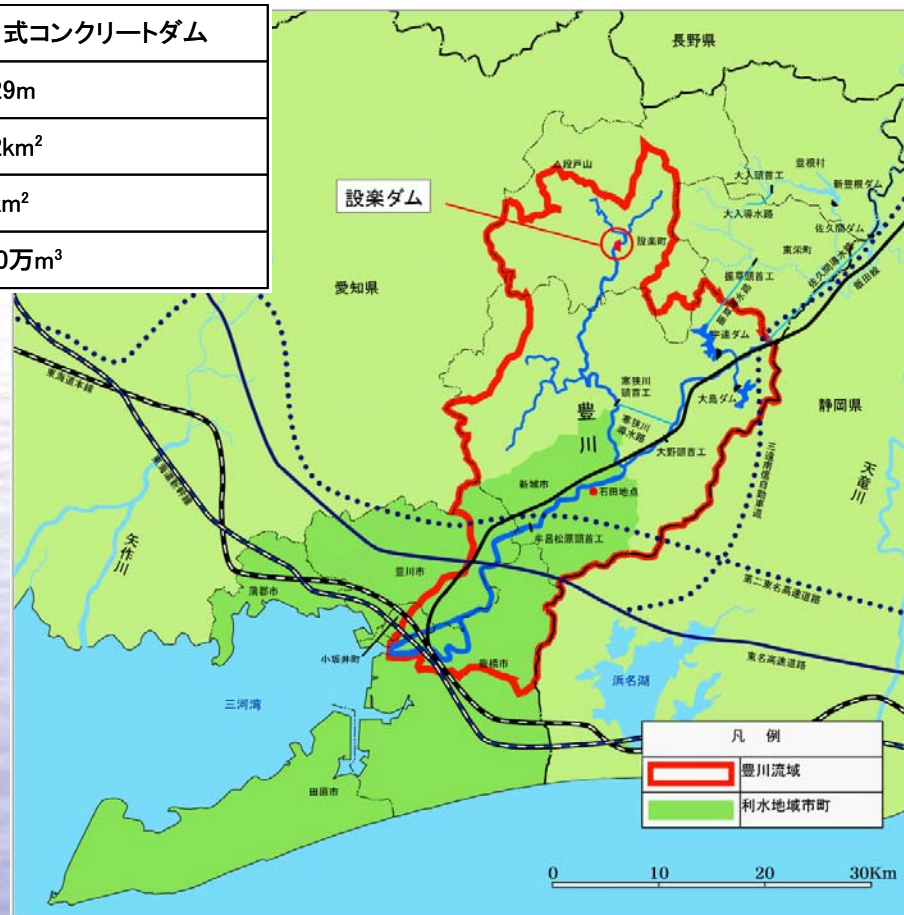
事業の必要性

◆豊川流域及び設楽ダム位置図

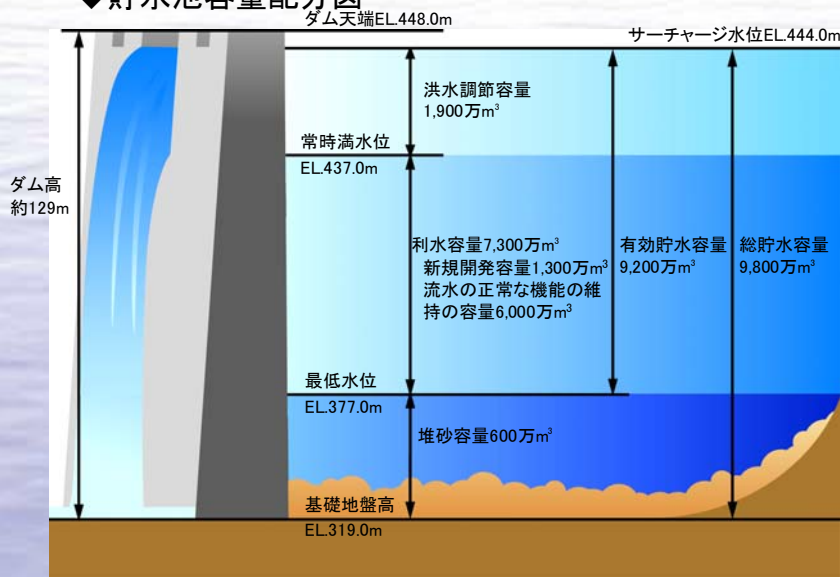


◆ダム・貯水池諸元

形式	重力式コンクリートダム
堤高	約129m
流域面積	約62km ²
湛水面積	約3km ²
総貯水容量	9,800万m ³



◆貯水池容量配分図



I.事業の必要性等

2. 事業の必要性

(1) 豊川流域の現状

①過去の災害実績(洪水)

戦後最大の洪水として記録された昭和44年8月洪水をはじめとして、これまで幾度となく水害に見舞われている。

◆過去の出水と災害状況

死者11人、負傷者255人

全壊流失904棟

半壊流失2,550棟

床上浸水241棟

床下浸水801棟

死者6人、負傷者10人

全壊流失28棟

半壊21棟

床上浸水247棟

床下浸水1,602棟

全壊流失7棟

半壊919棟

床上浸水919棟

床下浸水838棟

全壊流失4棟

半壊4棟

床上浸水34棟

床下浸水156棟

一部損壊2棟

床下浸水5棟

一部損壊3棟

床下浸水1棟



昭和34年9月(豊橋市大村)



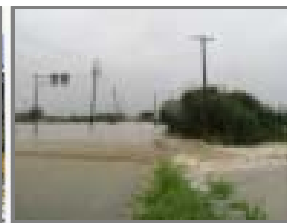
昭和43年8月(新城市豊島)



昭和44年8月(一宮町江島)



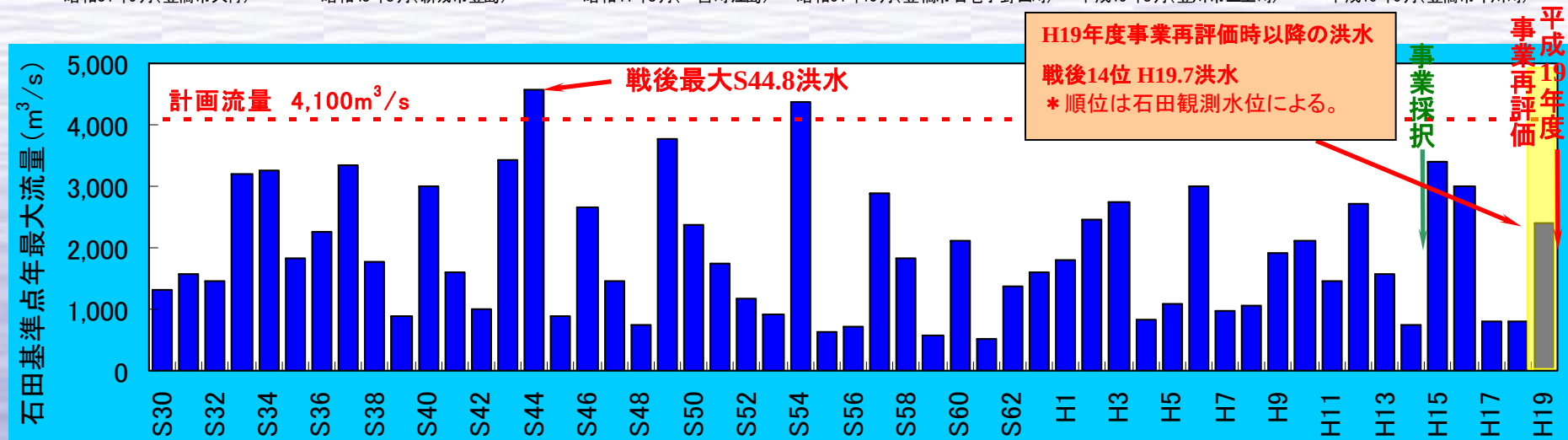
昭和54年10月(豊橋市石巻小野田町)



平成15年8月(豊川市三上町)



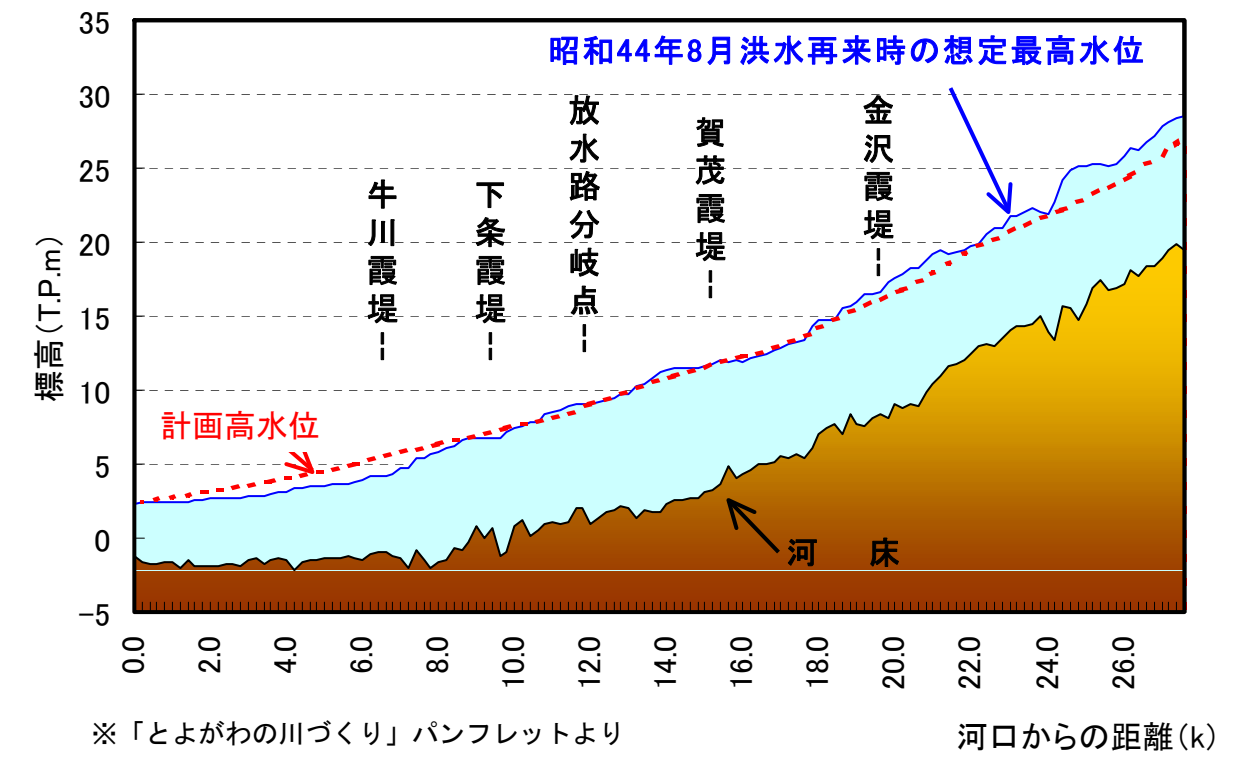
平成16年6月(豊橋市牛川町)



②洪水による被害発生の危険性

戦後最大洪水である昭和44年8月洪水が再来した場合、いたるところで水位が計画高水位を上回ることになり、洪水被害が発生する恐れがある。

◆昭和44年8月洪水が今再来した場合の最高水位



* 整備計画策定時河道

③洪水による被害発生時の影響

現在河川整備を進めているが、整備の途上であるため、ダム計画で見込まれている150年に1回程度発生する洪水に見舞われた場合、堤防の決壊等が生じ、甚大な被害を受けることが想定される。

- ・ 浸水想定面積：約5,500ha
- ・ 浸水想定区域内人口：約45,000人
- ・ 浸水想定区域内資産額：約7,200億円

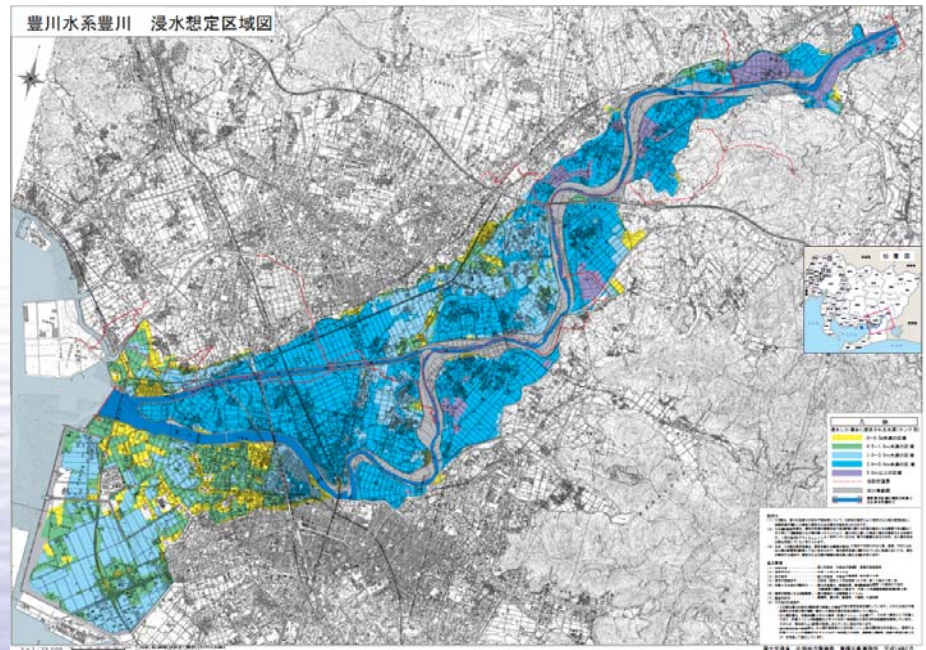
＜浸水想定区域内の主な資産＞

市町村：豊橋市、豊川市、新城市、小坂井町

鐵道 : 東海道新幹線、JR東海道本線、
JR飯田線、名鉄名古屋本線

主要道路：東名高速道路、国道1号、23号、
151号、259号、362号

◆豊川水系豊川 浸水想定区域図 1/150規模洪水発生時

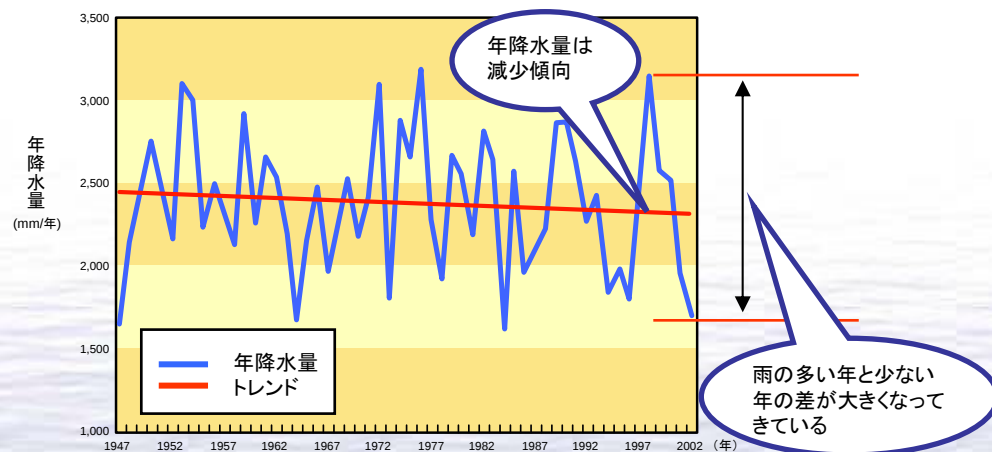


※平成14年2月28日公表済

④過去の災害実績(渇水)

豊川では毎年のように取水制限が行われており、水道用水の減圧給水や工場の生産調整、農作物の生育不良などの渇水被害が発生している。平成13年度に完成した大島ダム等の運用以降も取水制限が行われている状況にある。

豊川水系の年降水量の経年変化



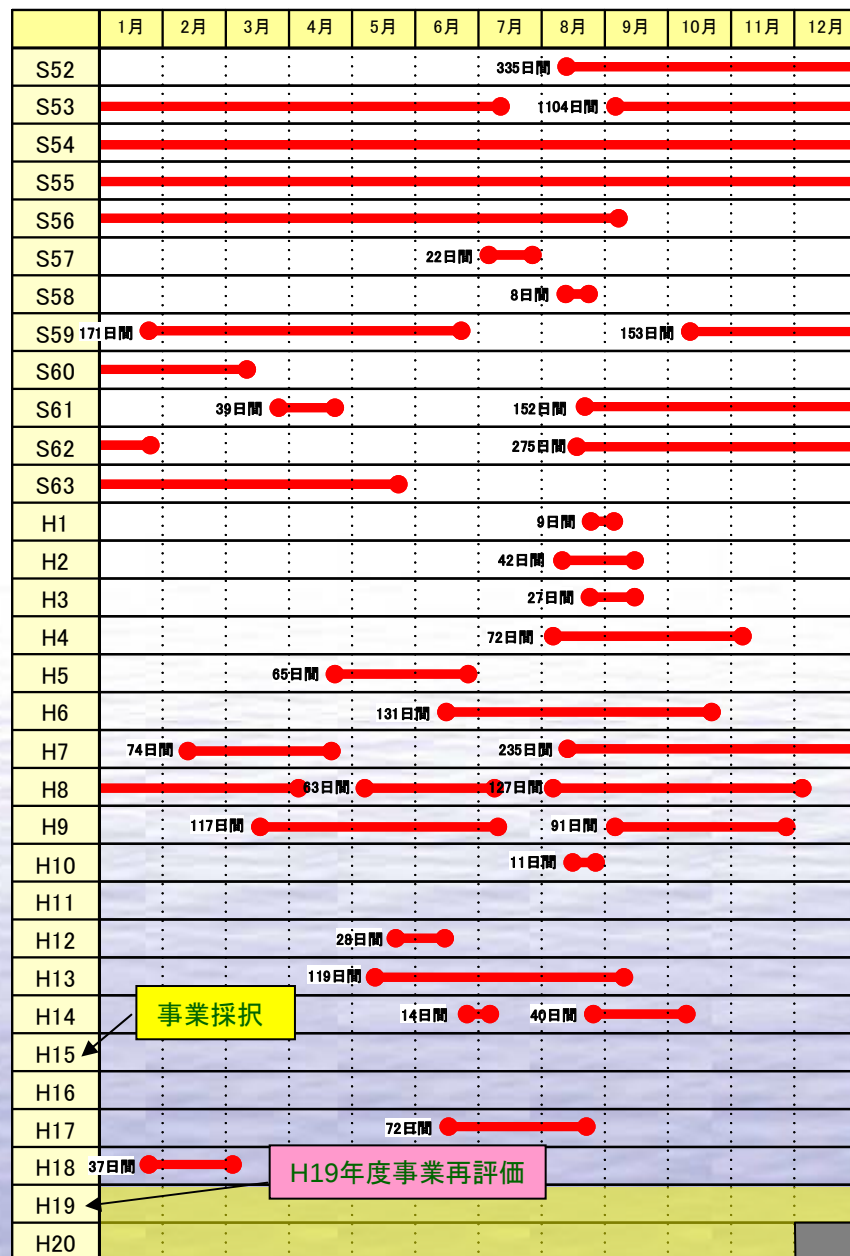
トウモロコシ被害状況



サトイモ被害状況



◆過去の取水制限の状況(昭和52年～平成20年11月)



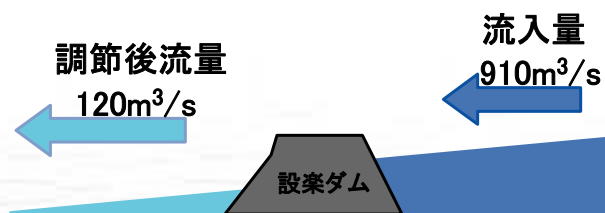
(2) 設楽ダムの効果

① 洪水調節

設楽ダムで洪水調節を行うことにより、豊川の洪水氾濫から人々の暮らしを守る。

戦後最大の大洪水がきたら

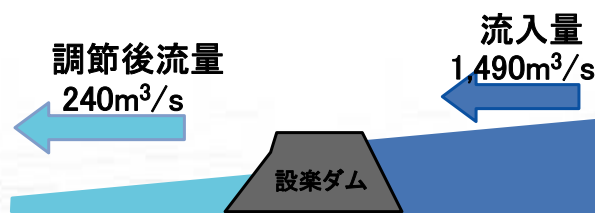
●ダム地点では(ピーク時)



- ・基準地点石田では
流量減少量約 $550\text{m}^3/\text{s}$
水位低下量約 0.6m

150年に1回の大洪水がきたら

●ダム地点では(ピーク時)



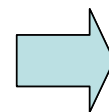
- ・基準地点石田では
流量減少量約 $1,000\text{m}^3/\text{s}$
水位低下量約 1.0m

設楽ダムでは、急な洪水でも対応できるよう洪水調節容量は常に空にしておきます。

②流水の正常な機能の維持

渇水時に設楽ダムから水を放流し、牟呂松原頭首工、大野頭首工下流の河川流量を増加させ、河川生態系や良好な河川景観を保全する。

位置図



流況改善放流無
約50日

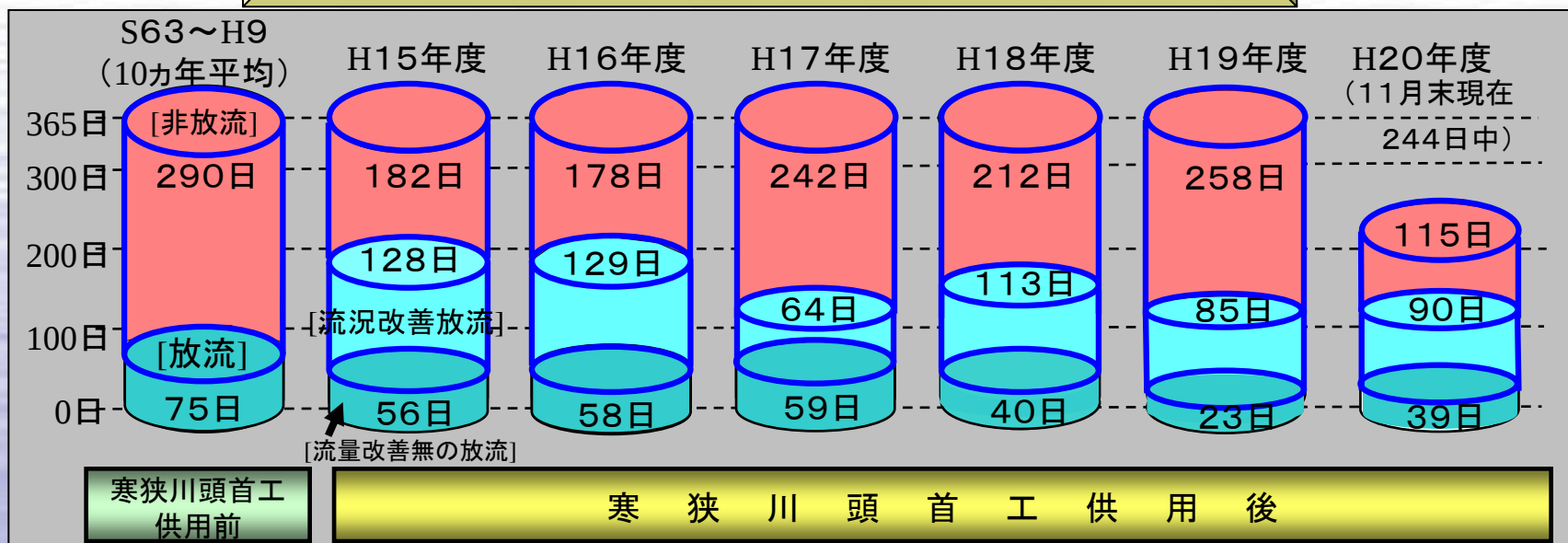


流況改善有
約150日(H19まで)



設楽ダム完成後
通年確保に努める

データ出典: 水資源機構



③新規水資源開発

東三河地域の農業用水及び水道用水合わせて約 $0.5\text{m}^3/\text{s}$ の新たな取水を可能にする。

■■農業用水として

露地野菜の栽培やハウスでの施設園芸が盛んな東三河地域において、農地約17,200haへの農業用水が取水されている。設楽ダムにより新たに約 $0.3\text{m}^3/\text{s}$ の取水が可能となる。



畑に散水される農業用水



トマトの栽培

■■水道用水として

豊橋市をはじめとする豊川用水の給水人口は、約72万人。浄水場で飲み水として処理された後、各家庭に供給されている。設楽ダムにより新たに約 $0.2\text{m}^3/\text{s}$ の取水が可能となる。



台所で使われる水道用水



浴室で使われる水道用水

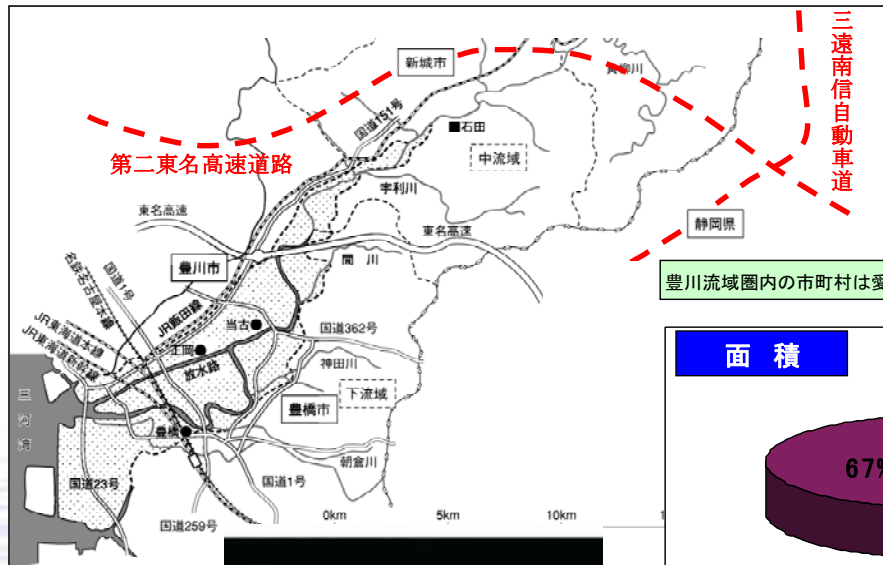
3. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

事業を巡る社会経済情勢等の変化

(1) 地域開発の状況

豊川の水と温暖な気候に恵まれた豊川流域では、野菜やくだもの、花などの農業が盛んであるとともに、三河港周辺の臨海工業地帯では自動車産業を中心に、様々な工業生産活動が行われている。今後の交通網整備により益々の発展が期待できる地域である。

◆流域周辺の主要交通網

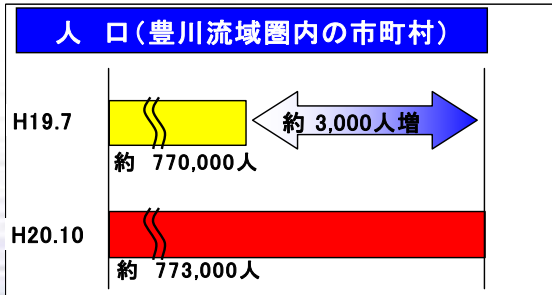
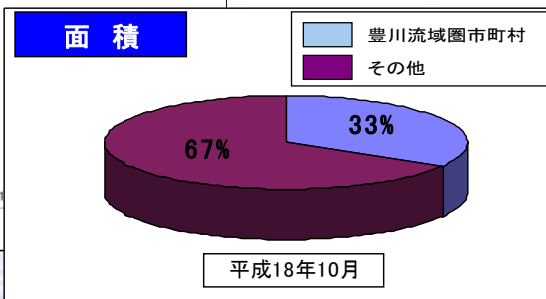


◆流域周辺の主要交通機関

- 【鉄道】JR東海道新幹線、JR東海道本線、名鉄名古屋本線、JR飯田線
- 【高速】東名高速、（第二東名高速、三遠南信自動車道）
- 【国道】1号、23号、151号、259号、362号

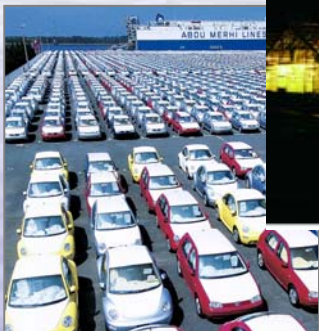
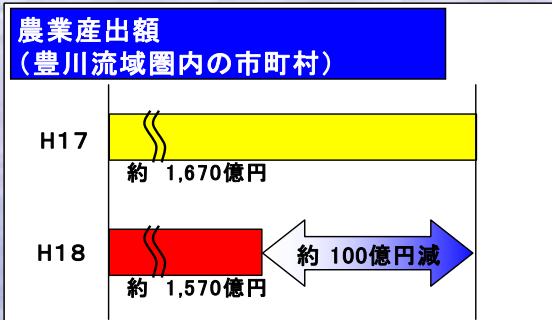
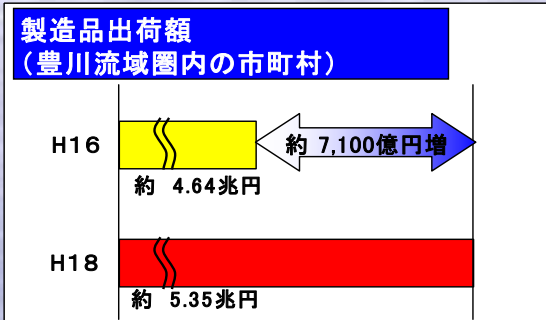
豊川流域圏内の市町村は愛知県内の面積の1/3を占める。

豊川流域圏内の市町村の人口は、約1年で約3,000人増加している。



豊川流域圏内の市町村の製造品出荷額は、約2年間で約7,100億円増加している。

豊川流域圏内の市町村の農業産出額は、約1年間で約100億円減少している。



電照菊の栽培

豊橋港に並ぶ車

(2) 地域からの要望

事業を巡る社会経済情勢等の変化

豊川水系総合開発促進期成同盟会等、様々な団体、市民団体等から設楽ダム
の建設促進を要望されている。

設楽ダムの建設促進は多くの団体から要望されている。

- ・ 豊川水系総合開発促進期成同盟会
- ・ 愛知県豊川改修工事促進期成同盟会
- ・ 東三河県営水道受水団体協議会
- ・ 豊川用水二期事業促進協議会
- ・ 東三河商工会議所・商工会

など

◆東愛知新聞(平成20年10月8日)



◆東愛知新聞(平成20年7月8日)



また、多くの市民団体が設楽ダム建設予定地等を
視察して、受益者の思いを設楽町へ伝えている。

- ・ 下流受益市町の首長及び議会
- ・ 下流5市のJA組合長
- ・ 東三河商工会議所・商工会
- ・ 豊橋女性農業団体連絡会
- ・ WICとよはし

4. 事業の進捗状況

■ 事業の経緯

- 平成19年8月 「第29回 豊川の明日を考える流域委員会」において設楽ダム建設事業再評価を実施
- 平成19年9月 事業評価監視委員会に設楽ダム建設事業再評価の結果を報告
- 平成19年12月 関係機関に設楽ダム建設に係る総事業費と負担割合を提示
- 平成20年1月 設楽町が国土交通省と愛知県に7項目の要望書を提出
- 平成20年1月 愛知県がダム使用权の設定を国に申請
- 平成20年1月 国土交通省が愛知県知事に設楽ダム基本計画の作成について意見照会
- 平成20年3月 愛知県知事から議会の議決を経て、意見照会に対する同意の回答
- 平成20年6月 「第30回 豊川の明日を考える流域委員会」において河川整備計画に基づく河川整備の実施状況について報告
- 平成20年8月 設楽ダム事業費等監理委員会を開催
- 平成20年10月 設楽ダムの建設に関する基本計画の作成
- 平成20年10月 設楽ダム建設に伴う損失補償基準の提示
- 平成20年12月 「設楽ダム建設同意に係る確約事項」を設楽町へ回答
- 平成20年12月 設楽ダム環境検討委員会を開催

(1) 設楽ダム基本計画の策定

平成20年10月27日に、ダム建設のための基本的な事項を定めた「設楽ダムの建設に関する基本計画」を作成した。

10月28日(火) 2008年(平成20年) 東日新聞 (1)

設楽ダム基本計画を公示



設楽ダム完成予想図

水没者には補償基準

加藤町長「来るものが来た」

国土交通省中部地方整備局が設楽町松戸―清崎地区内に建設を計画している設楽ダム基本計画は27日に官報に告示され、公示された。73(昭和48)年の計画発表以来35年ぶりに、特定多目的ダム法に基づく基本計画が策定されたのを受け、国交省設楽ダム工事事務所(堀与志郎所長)は28日、水没関係者ら地権者に対し、補償基準を提示する。

公示された基本計画によると、洪水調節、流水機能維持、かんがい(新規に毎秒0.339立方メートル、新堤129.6メートルの重

住民投票 直接請求も出る

27日、建設の賛否を問う直接請求の本請が出された。請求代表者のひとり、元校長の伊奈弘・事務局長が設楽町役場を訪れ、手続きした。これにより、設楽町長は意見を付して、町長として提案しな

発、水道(毎秒0.179立方メートル)の4つの建設目的をもつ多目的ダム。堤高129.6メートルの重

部の水井修一副本部長が立ち会う。加藤町長は「いよいよ来るものが来た。心を引き締め、誤りなきよう対応をしたい」と話す。

(山崎祐一)

設楽ダム 基本計画を公示

国交省 20年度完成目指す

国土交通省が愛知県設楽町の豊川上流に建設を予定している設楽ダムの基本計画が二十七日、公示された。

特定多目的ダム法で定める建設に向けた法的手続きは終わり、町や水没者が同意すれば着工となる。二〇二〇年度完成予定。同ダムは洪水調節やかんがい、水道用などの多目的ダムで、総貯水量は九千八百万立方メートル、総

事業費は約二千七十億円。国が約62%、愛知県が約38%を負担する。

一方、町内ではダム建設の是非を問う住民投票条例制定の直接請求の動きがあり、この日、代表者が条例案を本請求した。

中日新聞
平成20年10月28日(火)

東日新聞

平成20年10月28日(火)

(2)ダム対策協議会へ「設楽ダム建設に伴う損失補償基準」の提示

平成20年10月28日にダム対策協議会へ「設楽ダム建設に伴う損失補償基準」の提示を行った。

設楽町内地区別説明会・地区別相談会 地区外説明会実施状況

23 三河 13版△ 2008年(平成20年)10月29日 水曜日

設楽ダム計画
水没120世帯と交渉へ
国、補償基準を提示

国土交通省中部地方整備局は28日、設楽町に計画している設楽ダム建設に伴う用地買収などの補償基準を住民側へ初め提示した。計画が持ち上がった30年、事業総額が約70億円。当初はダム反対だった町と県会との交渉条件に転じた曲折を経て、設楽町構想は、建設に向けて本格的な用地交渉が進むことになる。

提示は設楽町役場で行われ、水没予定地の約120世帯に理解してもらった上で、用地交渉を進める。地権者の生活再建、町の再建に向けて「全力で取り組む」といふ。大久保会長は補償基準の務所の堀と志郎所長が「内容が記された書類を手渡す」と述べた。

同整備局設楽ダム工事事務所の堀と志郎所長(左)から用地買収の補償基準の書類を受け取る大久保成一会長ら住民＝設楽町役場

地方整備局設楽ダム工事事務所の堀と志郎所長(左)から用地買収の補償基準の書類を受け取る大久保成一会長ら住民＝設楽町役場

補償基準は、水没予定地の住民らが所有する土地、山林、田畑、住宅、立ち木、移転に伴う費用などを個別に具体的な価値で示した。同整備局は「個々の財産にかかわる」として、補償額は明確に示している。

同整備局は、水没予定地の約120世帯に補償基準の書類をそれぞれ手渡し、11月4日から地区別の説明会を開催し、対策協議会を開く。併せて、対策協議会への協議を進め、補償基準についての賛否が成立し、住民と個別に用地買収の交渉を始める予定だ。

同整備局が27日発表した基本計画によると、設楽ダムは洪水調節や利水に使用される。総容量は約800万立方メートル。下流の新設の市と小笠原町で水道水や農業用水に使用される。20年度の完成を目指している。計画は2000年の国土

地がタムの底に沈む。73年に県が設楽町にダム調査を申し入れた当時は、町と県会が反対し、手続きは難航したが、その後、住民の高齢化などを理由に条件付き賛成へと転じた経緯がある。大久保会長は「40年ぶりの約束だった。初めは自然の姿に建設反対だったが、時の流れはあっという間に流れてしまった。ダムができてよかったと思う方向に進んでいる」と述べた表情で補償基準の書類を受け取った。この日、補償基準に立ち会った加藤年一・設楽町長は「いよいよ本格的な交渉が始まる。水没世帯の町、将来のために、しっかり対応したい」と話した。

朝日新聞
平成20年10月29日(水)

地区名	町内地区別説明会開催日	町内地区別相談会開催日
八橋	平成20年11月4日(火)	平成20年11月17日(月)
川向	平成20年11月5日(水)	平成20年11月18日(火)
大名倉	平成20年11月6日(木)	平成20年11月19日(水)
松戸	平成20年11月7日(金)	平成20年11月20日(木)
小松・長江	平成20年11月14日(金)	平成20年11月21日(金)
田口	平成20年11月12日(水)	平成20年11月25日(火)

地区名	地区外説明会開催日
新城	平成20年11月27日(木)
豊橋	平成20年12月1日(月)
名古屋	平成20年12月4日(木)

(3)「設楽ダム建設同意に係る確約事項」を設楽町へ回答

平成20年12月12日に「設楽ダム建設同意に係る確約事項」について国・県が設楽町に回答を行った。

中 日 新 聞

2008年(平成20年)12月13日(土曜日)

読 者

書 局

新 聞

地 域

2008年(平成20年)12月13日(土曜日) 11版 社 会 30

35 + 地 域

設楽ダム

建設条件に「満額回答」

国と愛知県 町同意なら着工へ
総額900億円

国土交通省が愛知県設楽町の豊川上流に計画している県内最大規模の設楽ダム事業で、同省と県は十二日、建設同意への条件として町が出していた要望事項に対する回答を加藤和年町長に示した。両者とも「満額回答」としている。町は回答を議会や水没予定者の町民に示したうえで、建設に同意するかを判断。同意すれば関連工事が本年度中に始まる。

回答は、水没予定者や上下水道整備に八百 額約九百億円。対策基 維持管理費などに充ての移転地整備などに約 三十億円、設楽ダム対 金はダム建設に伴って 造る道路や公共施設の 地や建物の補償以外 二十八億円、町の道路 策基金五十億円など総

に、感謝協力金などとして一戸当たり五百万 一千五百万円ほどを支 払う。建設費と合わせ たダム事業全体の費用 は三千億円に上る。 町は二〇〇三年、三 十七項目の要望を示 し、ダム建設事業の推 進に関する協定を国と 締結。この要望を基に 今年一月、建設同意の 条件として、水没予定 者の生活再建対策など 七項目について具体案 を示すよう国と県に求 めていた。

設楽ダム 町の要望7項目に回答
国と県、移転費など明確に

豊川上流に計画されてい る設楽ダムへの建設同意の 条件として、設楽町から提 示されていた確約事項に対 する国と県の方針が決まっ たのを受けて、国交省中部 地方整備局の山根尚之河川 部長と西村真嗣知事が十二 日、同町役場を訪れ、加藤 和年町長に回答書を手渡し た。写真。

回答は同町が今年一月に 国と県に提出した七項目の 要望に沿う内容で、ダム建 設に伴う水没世帯一、二〇 戸の生活再建に必要な一時金 や県が行う移転整備費(総 額二、七、八〇億円)を明確にし ているほか、同町が取り組 む水源地域整備事業(総額



約一、三、〇〇億円)の八割を県 と下流市町が負担すること などを明らかにしている。 加藤和年町長は「県が調 査を申し入れてから35年。 未解決のダム問題はいいよ

よ設楽町の手に移り、町長 民などに報告・説明をした として大きな責任を感じて いる」と述べた。 同町は今回の回答を受け、 年度内にもダム建設に着手 する。今後、町議会や地元住

読 売 新 聞
平成20年12月13日(土)

(4) 調査横坑の見学会

設楽ダム建設予定地の調査横坑見学会を実施し、十分な安全性を有する岩盤であることを事業者として確認していることを説明した。

■ 設楽ダム建設予定地の調査横坑見学会

【実施日】

平成20年8月27日(水) 設楽町議員
 平成20年9月 5日(金) 報道関係(7社)
 平成20年9月19日(金) 一般住民

中 日 桑 月 日
 2008年(平成20年)9月6日(土曜日) 東三河 20

設楽ダム横坑
 報道陣に公開
 岩盤の安全性強調
 国土交通省が設楽町の豊川上流に計画している設楽ダム事業で、同省設楽ダム工事業所は五日、ダム建設予定地の岩盤を調査するための横坑を報道陣に公開した。一部の町民が不安視している岩盤

岩盤の性質について説明する設楽ダム工事業所職員。設楽町内で

横坑が公開された。事務所によると、一帯の地層は約二億年前にできたと推定され、堆積岩がマグマなどの熱で変成した泥質片麻岩を中心に、花こう岩や閃緑岩といった火成岩が交じる。

左岸の横坑は奥行き五十メートル、右岸は奥行き六十メートル。入り口に近い岩は水などの浸食でもろくなっている部分があるため、ダム建設時に二十〜三十メートル削り、その上にコンクリート製の堤体を造る。

堀与志郎事務所所長は「岩盤の強度は問題ない。表面の岩を削る量が少なすぎて、調査をした」と話していた。

この日はダム堤体の強度の安全性をアピールする狙い。横坑は左岸に三本、右岸に五本掘られていて、点の左右両岸に掘った

享月 日 桑 月 日
 27 愛知 三河 13版△ 2008年(平成20年)9月6日 土曜日



地質調査のための横坑内。実際の調査でもハンマーをつかって岩盤をたたき、強度を調べるといふ設楽町清崎

設楽ダム「地盤は安全」
 調査トンネル公開

国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事業所は五日、同省が豊川上流の設楽町に建設を計画している設楽ダムの本体建設予定地の岩盤を調査する調査トンネルを報道陣に公開し、安全性をアピールした。しかし、裏付けるデータは示されなかった。

予定の地盤は弱く危険、同省が豊川上流の設楽町に建設を計画している設楽ダムの本体建設予定地の岩盤を調査する調査トンネルを報道陣に公開し、安全性をアピールした。しかし、裏付けるデータは示されなかった。

予定の地盤は弱く危険、同省が豊川上流の設楽町に建設を計画している設楽ダムの本体建設予定地の岩盤を調査する調査トンネルを報道陣に公開し、安全性をアピールした。しかし、裏付けるデータは示されなかった。

国土交通省事務所

音の違いなどを職員が説明した。実際の地質調査でもうして強度を調べるという、07年のボーリング調査について住民が質問したところ、同事務所が「地質条件は流側と比べ、あまり良好でない」と答え、あまり良好でないとの声が広がった。同事務所は「ダム本体の地盤は十分な強度がある。指図の地点は定地より下流で、建設時に取り除く必要はない」という意味だった。説明が膨らみ、予定されているのは高さ12メートル、幅4.8メートル、最大1000トンの重力式コンクリートダム。この日、「地盤の音の違いはわかっても、強度まではわからない」との質問に、事務所側は「水がたまったらダム本体にかかる260トンを越える300トンの力を地盤にかけても大丈夫だった、など説明した。

設楽ダム建設の是非を問う住民投票の準備を進めている住民グループは、ダム建設予定地周辺の地盤は昔から弱いと言われ、大きな地震が発生したときに危険なダムに水をためた後の地盤沈下や陥没、地滑りの不安がある、と指摘している。

(5) ネコギギ飼育施設の公開

設楽ダム建設によって、その生息環境に影響を与えることが予測されているネコギギについて、保全の取り組みの一環として野外実験を行っており、その状況報告及び飼育施設を公開した。

■ ネコギギ飼育施設を報道関係者(6社)に公開(平成20年10月31(金)実施)

◆ 絶滅危ぐ、天然記念物の淡水魚

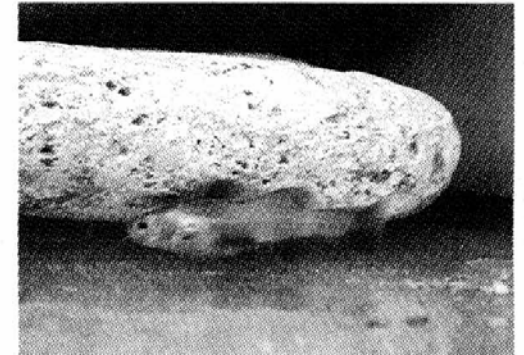
ネコギギ保全 一歩一歩

国土交通省設楽ダム工事事務所は31日、ダム計画に伴い豊川にすむ国天然記念物の淡水魚ネコギギ＝写真＝を保全するため実施している本年度の実験結果を明らかにした。昨年放流した稚魚のうち1匹を捕獲し、生息を確認した。

事務所は、ダムが建設

されればネコギギがいる19の淵(ふち)が影響を受けるとして、2006年度から飼育と人工繁殖に取り組み、移植先を探している。昨年10月、稚魚100匹を放流。今年8－9月に調査し、目視で2匹を確認、1匹を捕獲した。今年は270匹の繁殖に成功し、うち80匹の稚

設楽ダム事務所放流の稚魚確認



魚を12月に放流予定。ネコギギは三河湾と伊勢湾に注ぐ河川にしか生息せず、近い将来に絶滅する可能性が高いとされる。

(日下部弘太)

(6) 地区別事業説明会などの取り組み

設楽ダム建設事業への理解を得るため、「地区別事業説明会」、「設楽町議会説明」等を実施している。

地区別説明会の開催状況



地区別説明会説明状況

対象者	平成20年度 開催実施回数
地区別説明・事業説明会	23回
設楽町議会説明	6回
設楽ダム対策協議会	35回

※H20.12.12現在

設楽町議会に地質状況説明

中日新聞 2008年(平成20年)9月11日(木曜日) 東三河 16

設楽ダム「岩盤は強固」

町議会特別委 工事事務所長が説明

国土交通省設楽ダム工事事務所の堀与志郎所長は十日、設楽町議会特別委員会、ダム建設予定地の地質について説明。ボーリング調査で採取した岩を提示し「岩盤は強固だ」と主張した。

工事事務所は五月、昨年のボーリング調査の結果を問い合わせた住民に「調査地点周辺の地質条件はあまりよくない」と回答しているが、堀所長は「岩盤は軟らかい土で覆われているため、工事する場合を除く表土が多



議員にボーリング調査の結果を説明する堀所長(右から3人目)ら＝設楽町役場で

中日新聞
平成20年9月11日(木)

(目下部弘太)

き深く反省している」と話した。
また、工事事務所はダム本体が水圧で滑らないか調べるため、岩盤にコンクリートブロックを置いて土と横から力を加えて実験。横から一平方メートルあたり三百ポンドの力で押しても滑らなかったという。試算ではダムにかかる圧力は同最大二百六十ポンドとされるため、「十分な強度がある」と報告した。

(7)「設楽ダムホームページ」による最新情報の提供

設楽ダム工事事務所が実施している事業の取り組み状況を広く一般の方に知って頂くため、「設楽ダムホームページ」により、最新の情報を提供している。

■ 設楽ダムホームページ



ネコギギ情報を公開しています。

ネコギギ情報

http://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/01menu/14nekogigi/nekogigi_info...

ホーム > ネコギギ情報

ネコギギ情報

- ・ネコギギとは(ネコギギの特性紹介)
- ・取り組みについて
 - ・ネコギギの野外実験について(記者発表資料)
 - ・野外実験の経過
 - ・調査・整備状況
- ・ネコギギの展示について

当事務所のネコギギの保全については、こちらをご覧ください。

「設楽ダム工事事務所のネコギギの保全について」のパンフレットがダウンロードできます。

パンフレット「ネコギギの保全」
PDF資料3.27MB

クマタカ情報については、今後公開予定です。

現場に密着した「設楽ダムだより」を発行しており、ホームページからもダウンロードできます。

設楽ダムホームページアドレス: <http://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/>

(8)「設楽ダムだより」の発行

設楽ダム工事事務所が実施している事業の取り組み状況を広く一般の方に知って頂くために、現場に密着した「設楽ダムだより」を発行し、現在の設楽ダム建設事業の進捗状況等の情報を提供している。

設楽ダムだより

創刊号 2003.1

設楽ダムだより

創刊号 2003.1
編集・発行
国土交通省中部地方整備局
東海ダム調査事務所
〒441-1341
愛知県名古屋市杉山字大東57番
Tel&Fax 05362-3-433

[illegible]

調査を実施

概ね完了する予定ですが、
用件調査①（事前調査）
②調査した土壌の塩素
③調査した土壌の塩素
に基づいて用件調査の
結果をまとめる予定です。
4月以降に調査の結果は
発表予定です。
調査結果をまとめる
予定です。

生活実態調査を実施

ダムの移転により住居
の移転を余念なくする
家計や、生活実態調査
の結果をまとめる予定
です。

また、転居先等の生活

再建に関するご意見や、仲間への生活実態調査と、多数の移住対象者へのご希望を伺うため、昨年1月下旬、中部から今年1月下旬にかけて調査を実施し、その後各理の生計と再建対策を協議する目的で重宝にこの資料となるものです。

とりわけ「移住先地選考者の方々の最大の心配事である移転先地の環境」については、この調査結果をもとに、愛知県の



地元読売新聞はもちろぬのこと、移転先が地元の市町村の協力も必要で、早期に具体的な計画提示ができるようになして行きます。

また今後は、移転先の方々と個別に移転等を相談させていく、生活再建意向調査への活用も実施して、それぞれの事情にあつた生活再建を支援して行く面を決定して行く

調査内容の説明に熱心に聞き入る移転対象者

(19 日 16 日移転先市町村担当者協議会メンバー)

☆☆☆、童星をお待ちしております☆☆☆

「設楽ダムだより」は、ダムに関する各種の調査や工事の状況、生活再建対策等に関する最新の情報をお知らせするために創刊した、情報誌です。

より良い「設楽ダムだより」をお届けするために、あなたのご意見をお寄せ下さい。

〒441-1341 愛知県新城市市山字大塚57番地 国土交通省 設楽ダム建設事務所 「ダムだより」担当宛
Tel & Fax 05362-3-4351 ホームページ <http://www.cbr.mlit.go.jp/abitarra>

平成15年1月から「設楽ダムだより」を発行し、

地域の皆様に設楽ダム事業について情報提供しています。

第26号 2008.8

した
設楽ダムだより

第26号 2008.8		
国土交通省中部地方整備局 〒441-1341 設楽ダム工務事務所 新城市杉山大字 5 http://www.cbr.niti.go.jp/sht/tar/		
	TEL	FAX
総務課	(0538)23-4331	(0538)23-4401
調査・品質管理課	(0538)23-4361	(0538)23-4408
設楽庁舎 〒441-2301 北設楽郡設楽町田口平川真田 1-2		
用地課第一課	(0536)67-1790	(0536)67-1791

平成20年度に行っている調査の一覧です

調査区分	調査の概要	7月1日現在
道路関係調査	付替道路国道257号線の道路の詳細設計を実施しています。 また1号、2号、4号、5号、6号橋梁の詳細設計を実施しています。 付替道路瀬戸設案線の1号、2号橋梁の予備設計を実施しています。 付替道路瀬戸設案線の1号、2号トンネルの起点側、終点側の両坑口部分の設計を実施しています。 付替道路小松田口線1号トンネルの起点側、終点側の両坑口部分の設計を実施しています。 付替道路の設計のため、田口、松戸、大名倉、小松、長江、川向、八橋地区で地質調査を実施しています。 付替道路設案根拠線の設計のため、八橋地区において路線測量を実施しています。	
ダムサイト調査	これまでに実施したボーリング孔の地下水位観測や、ダムサイト付近の地質構造の検討のためにボーリング等地質調査を実施しています。	
貯水池等調査	ダム貯水池周辺斜面の湛水影響検討のため、小松、八橋地区においてボーリング調査を実施しています。 ダム設計の基礎資料とするため、ダム周辺の地形測量を実施しています。	
環境調査	ダム事業によって生息環境に影響を及ぼすと予測される重要な動植物の適切な保全対策を行うための事前調査を実施しています。 事業予定地周辺に生息する希少淡水魚類の適切な保全対策検討のため、同種の飼育繁殖・生息状況・生息環境の現地調査、野外実験を実施しています。 事業予定地周辺に生息する希少猛禽類の適切な保全対策検討のため、同種の生息状況調査を実施しています。 放流船について、餌である付着藻類、船の底質状況等の現地調査を実施しています。	
水理水文調査	豊川上流域の雨量・流量観測・水質調査を実施しています。 雨量・流量観測所等の観測設備及び観測施設の維持管理を実施しています。	
文化財調査	湛水予定地及び付け替え道路の予定地で埋没文化財の試掘調査を実施しています。	

第27号 2008.11(最新号)

した
設案ダムだより

第27号 2008.11		
国交省運輸支那事務課 〒441-1341		
設楽ダム工事事務所 新城市杉山大字東1		
http://www.chr.aill.go.jp/shitaifa/		
TEL		FAX
総機係	(0536)23-4331	(0536)23-4401
調査・品質管理係	(0536)23-4387	(0536)23-4408
設楽庁舎 〒441-2301		
北設楽郡設楽町田口字川原田1-2		
用地課一課	(0536)62-1290	(0536)62-1291

損失補償基準を提示しました

10月28日に、設楽町役場議場において、設楽町加藤町長と、豊川水系対策本部永井副本部長の立会いのもと、設楽ダム対策協議会に「設楽ダム建設に伴う損失補償基準」を提示しました。

[illegible]

町内地区別説明会開催

町内地区別相談会

◆町外の地権者の方につきましては、別途ご連絡致します

地区名	会場	開催予定日	開催時間	地区名	会場	開催予定日	相談時間
八 橋	八橋老人会館の家	11月4日(火)	19時～	八 橋	八橋老人会館の家	11月17日(月)	※
川 島	川島作業所	11月5日(水)	19時～	川 島	川島作業所	11月18日(火)	※
大 倉	大倉作業所	11月6日(木)	19時～	大 倉	大倉作業所	11月19日(火)	※
松 戸	松戸公民館	11月7日(金)	19時～	松 戸	松戸公民館	11月20日(木)	※
小松・森田	小松公民館	11月14日(金)	19時～	小松・森田	小松公民館	11月21日(金)	※
	町田緑地健康センター	11月12日(水)	19時～		町田緑地健康センター	11月25日(火)	※

※ 相談時間10時～12時、13時～17時、18時～20時

(9)環境への取り組み

ダム建設に伴う環境影響の低減、その実施状況の監視をするため「設楽ダム環境検討委員会」を設置。また、特に重要である猛禽類、魚類及び関係機関との連携が必要不可欠な湿地管理については、別途委員会等を設置。

【設楽ダム環境検討委員会】

ダム建設に伴うダム周辺及びダム下流の自然環境に及ぼす環境影響に関して、環境保全措置等低減策の検討及びその実施状況の監視

—H20. 12設置—

【設楽ダム猛禽類検討会】

クマタカ等の希少な猛禽類に関する環境保全措置等低減策の検討及びその実施状況の監視

【設楽ダム魚類検討会】

ネコギギ等希少な魚類に関する環境保全措置等低減策の検討及びその実施状況の監視

【設楽ダム湿地管理検討委員会】

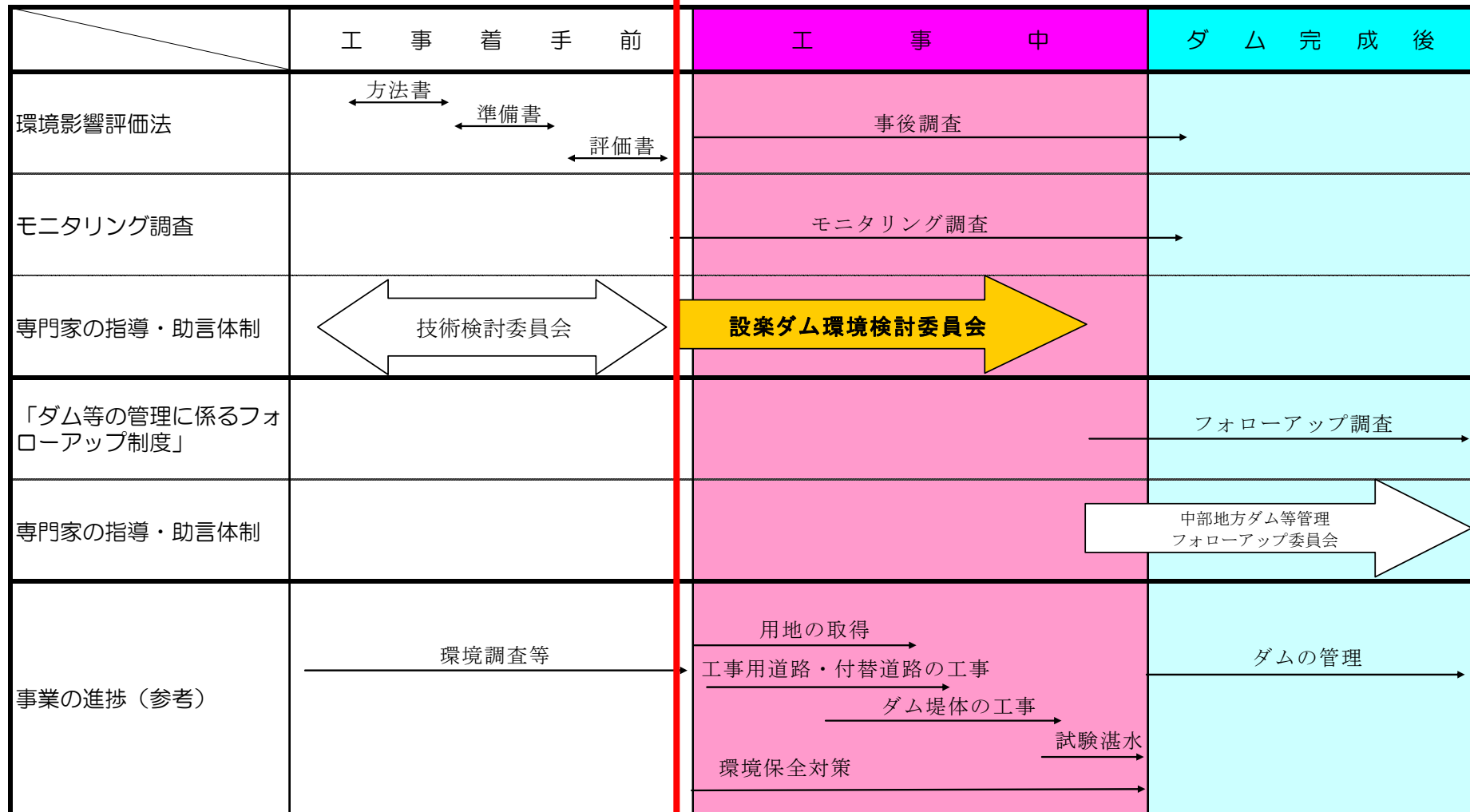
貴重種の移植先として整備を計画している湿地について、維持管理の主体や維持管理方法の検討

—H20.7設置—

②環境モニタリングについて

設楽ダムの工事にあたっては、専門家の指導助言を得ながら、より良い環境保全対策を行う予定。

【モニタリング調査工程】 平成20年12月



(10)生活再建対策

設楽ダム建設事業に必要な用地の調査(用地測量及び物件調査)は、約90%実施済みであり、残りの用地調査と水没移転者等の生活再建対策と合わせ継続して実施している。

生活再建対策

生活再建地
計画案の作成

移転者の意向確認
(戸別訪問)

現在実施中

移
転

分
譲

代替地造成

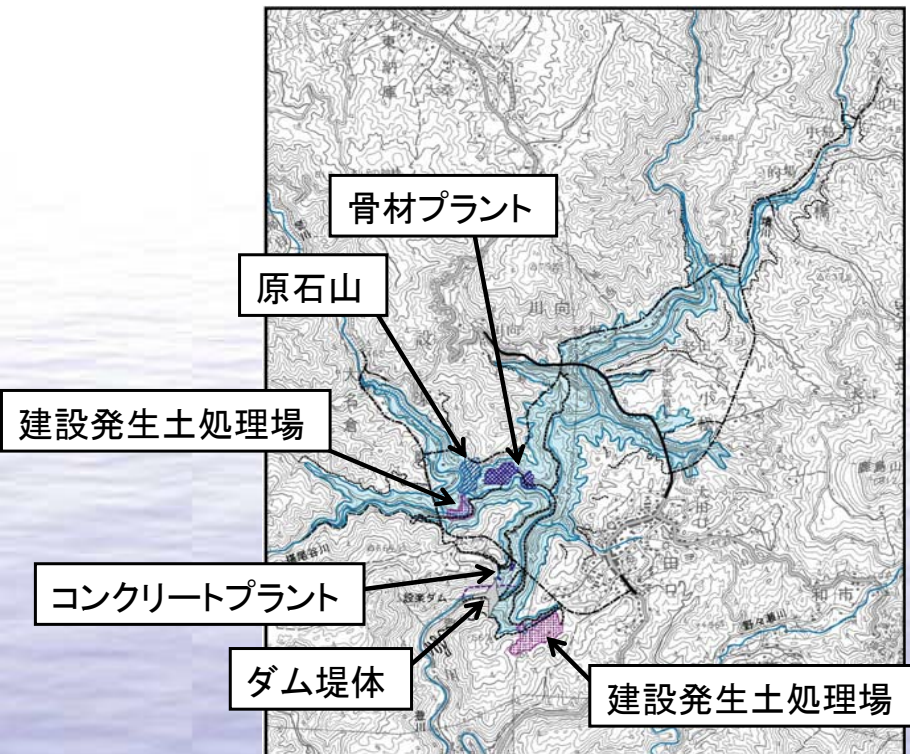
生活再建地計画のイメージ(案)



(11) 仮設備計画・道路計画

設楽ダム建設事業に必要な骨材プラント・原石山などの仮設備・道路の設計を進めている。

仮設備計画



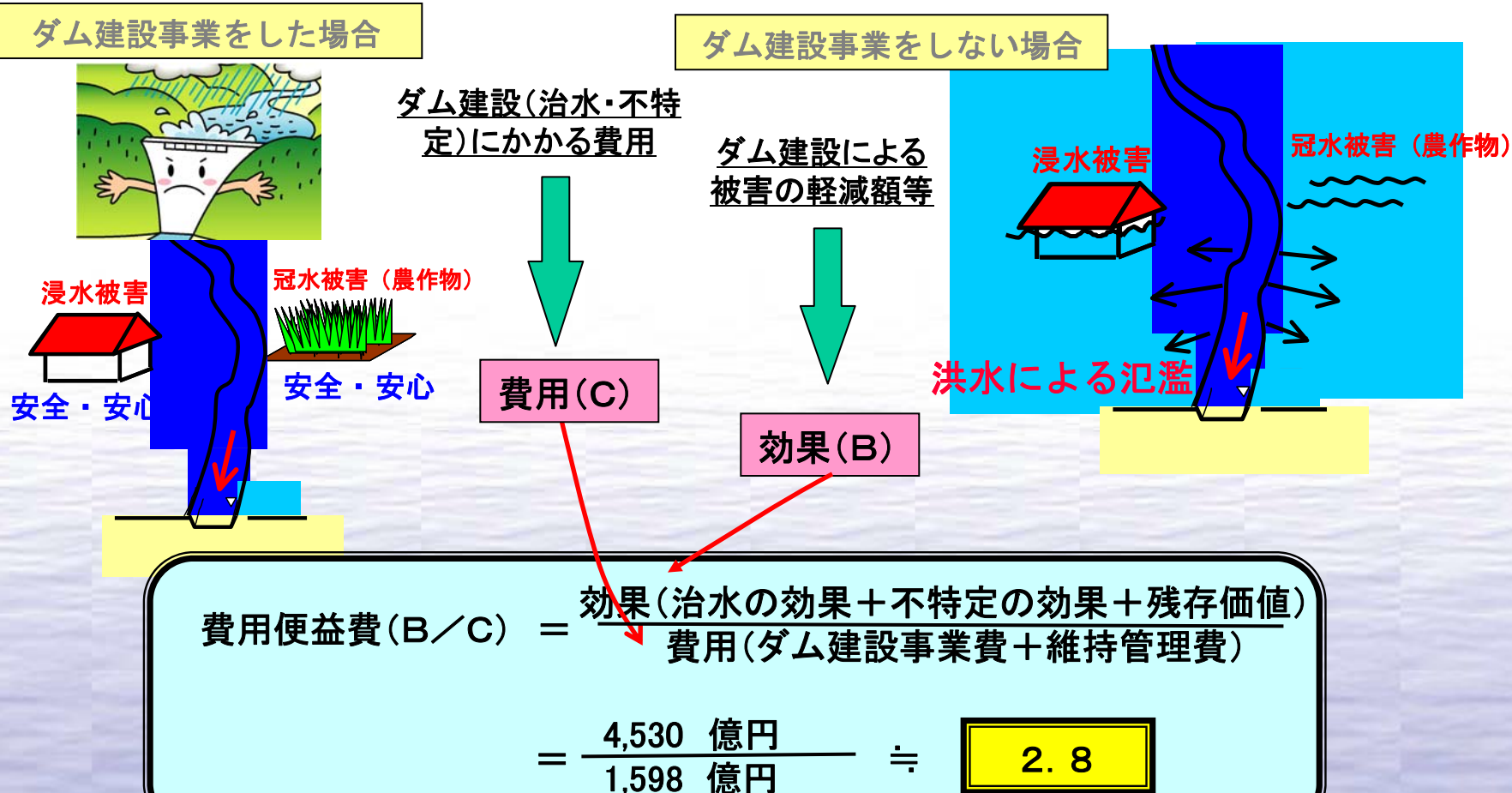
付替道路イメージ



5. 事業の投資効果

■ 設楽ダム建設事業における費用対効果

事業全体に要する費用(C)は1,598億円であり、事業の実施によりもたらされる効果(B)は4,530億円となる。これをもとに算出される費用対効果(B/C)は2.8となる。

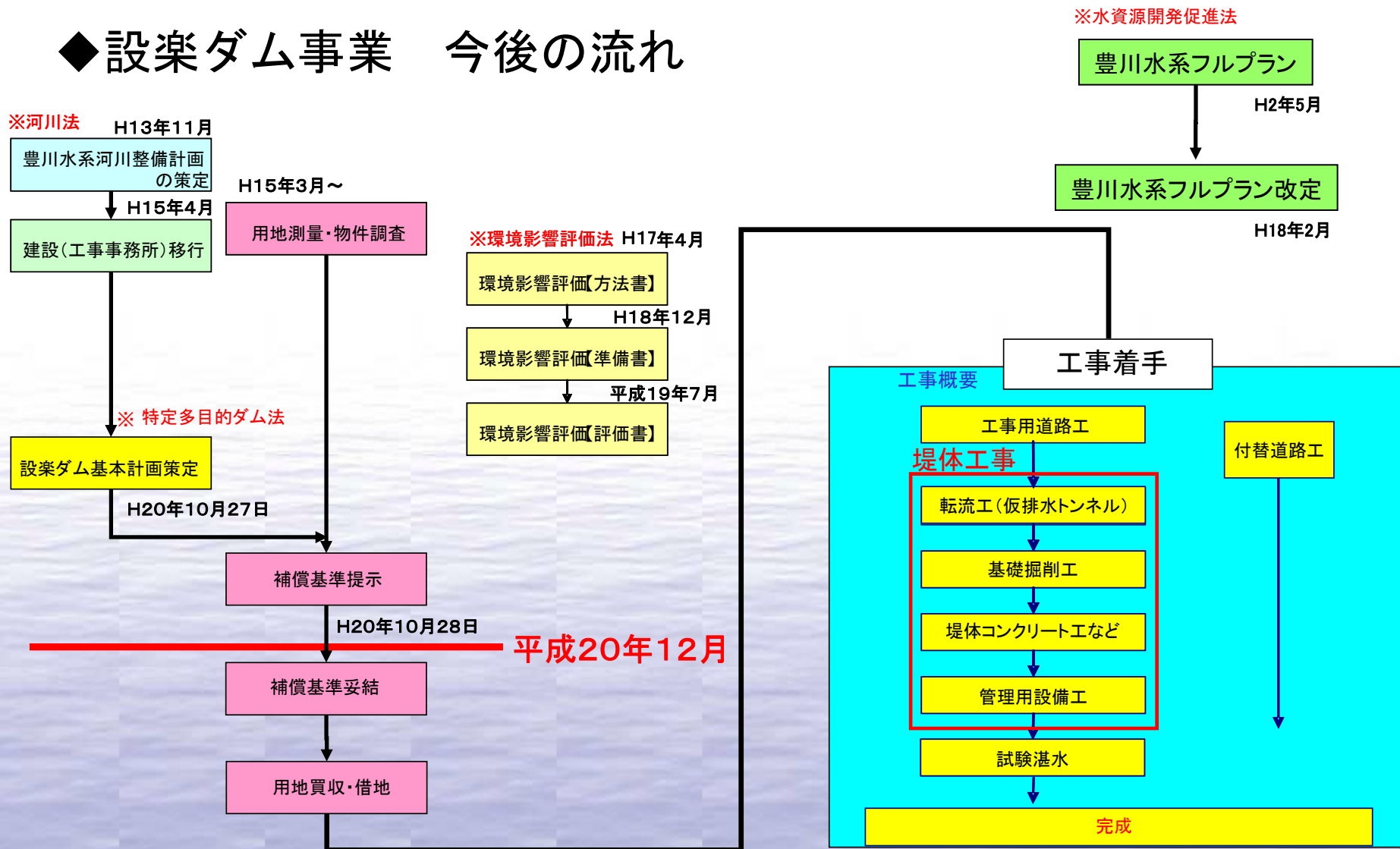


Ⅱ.事業進捗の見込み

事業進捗の見込み

平成20年10月27日に特定多目的ダム法に基づく基本計画を策定し、年度内に工事着手を目指している。

◆設楽ダム事業 今後の流れ



Ⅲ 設楽ダムのコスト縮減や代替案立案の可能性

1. ダム事業費等監理委員会

平成20年8月5日に「設楽ダム事業費等監理委員会」を開催し、平成20年度における事業執行についてご意見を頂いた。

【設楽ダム事業費等監理委員会】

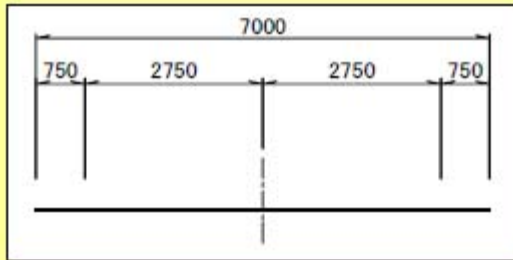
1. **目的** : ダム事業の執行に際し、ダムの事業費、工程管理の一層の充実を図るために設置。
2. **所轄事項** : 学識経験者等 8 名の委員で構成され、下記の項目について確認を行うとともに意見を述べる。
 - ①事業の進捗状況
 - ②当該年度の予算と事業内容
 - ③当該年度の目標とスケジュール
 - ④コスト縮減策の具体的な内容

付替道路幅員の縮小によるコスト削減

設案ダム事業費等監理委員会資料より抜粋

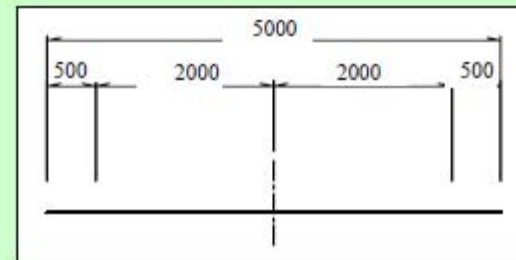
当初（2車線）

・H16年以前の道路基準により、2車線の道路幅員としていた。



変更（1.5車線）

・地域特性に応じたローカルルールを導入により、1.5車線の道路幅員が可能となった。



■コスト削減内容

地域特性に応じたローカルルールを導入により、県道の1.5車線化が可能となった。地元、関係機関と調整を行い、道路幅員の1.5車線化を図る。

■コスト削減の要因

道路幅員が標準部で7mが5mとなり、土工、構造物の縮小等によりコスト削減を図る。

■コスト削減額

約600百万円の削減（3,800百万円 → 3,200百万円）

※部分的拡幅部(すれ違い箇所)の箇所については調整中のため、削減額としては、付替道路県道小松田口線の橋梁部のみを計上している。



朝日新聞
平成20年9月23日（火）

2. 代替案立案の可能性

平成13年3月14日に開催された第19回豊川の明日を考える流域委員会において、河川整備計画原案作成に向けての提言を河道改修プラス設楽ダムによる洪水調節とする河川整備案でいただいております、また第29回流域委員会から約1年経った現在においても治水・利水の必要性については変わりはなく、また、環境面では設楽ダムの環境影響評価により、影響をできる限り低減させることから設楽ダム建設が最適である。

第19回豊川の明日を考える流域委員会議事概要参照

平成19年度の第29回流域委員会から約1年経過し、ダム基本計画が策定され事業の節目を迎えたため、3つの視点で再評価を行った。

①事業の必要性に関する視点

- ・ 豊川流域は現状においても治水安全度が低く、ひとたび洪水が発生すると甚大な被害が予想される。さらに、渇水が頻繁に発生し、毎年のように取水制限が行われている。また、地域の様々な団体から建設促進の要望が出されている。

②事業進捗の見込みの視点

- ・ 環境、用地等各種調査を鋭意実施している。また、特定多目的ダム法に基づく基本計画を平成20年10月に策定するとともに、補償基準を提示するなど、今後着実な事業進捗を見込むことができる。

③コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- ・ 現在、コスト縮減を考慮した計画を策定している。今後工事の施工に際しても工法の工夫等によりコスト縮減に努める。
- ・ 設楽ダム建設事業採択時から治水・利水の必要性については変化しておらず、また、環境への影響をできるだけ小さくする努力をしていくことから、設楽ダム建設事業を実施することは、最も適切である。

以上のことから、設楽ダム建設事業については継続する